

様式 4

令和 3 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取中央育英高等学校
校長 高垣 知博

評 価 日	令和 4 年 3 月 3 日 (木)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>○評価項目「学校行事・学級活動の充実」「安全意識・安全技術の向上」「地域探究の時間の発展・充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標も達成しており、「A」評価で良いのではないか。 <p>○評価項目「基本的生活習慣の確立」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標がクリアされていないが、そもそも校内規定を見直すということについては、どう考えているか。生徒への対応で、どこに重点を置くかということを考えて時、服装や頭髪について細かな（どうでも良いような）規則は不要ではないか。 ・校内規定の作成あるいは生徒が自らの振る舞い決定に至るまでの「プロセス」の方が重要ではないか。 <p>(2) 説明・公表について</p> <p>○特になし</p> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>○「地域探究の時間」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域探究の時間」による実績（進路実現につながることを）をもっと追求してほしい。そのための生徒への個別支援は外部に頼れば良い。外部の方（地域の人）を発掘する必要がある。 	<p>→3項目とも「B」を「A」にするとともに、今年度の結果を踏まえて来年度の指標を考える。</p> <p>→学校内のルールづくりは生徒にとって身近な主権者教育の場となる。今年度、校内規定を見直す際、生徒会や生徒・保護者のアンケートも行った。また、教員の指導要領となる「生徒指導に係るガイドライン」も見直したところである。まだ検討の必要な規定はあるため、引き続き生徒が関わるかたちをとりたい。</p> <p>→来年度は1年次から計画的に探究学習のノウハウを学習する。市販の教材を使うことで、授業担当者の負担も大きくないと考えている。また、2年次のフィールドワークは3回とし、充実を図る。3年次の4～6月は、地域探究の活動を基にした小論文や志望理由書の作成の時間をとる。</p>	

3. 取組改善のための提言

○本校への志願者減について

- ・学校の一層の広報が必要。

(例) 学校HPの魅力アップ、中学校説明会(在校生が話をする)、学校のイベント公開、学校広報誌(P T A新聞や新聞部発行の新聞)を外部に配布など

- ・地域を活用した活動の充実を図る。

(例) ・地域探究の学習活動をもってコンテストなどを
目指し、その成果を外部にしらしめる。(小中高・
役場が近くにある立地は貴重。)

・地域に関する部活動をつくる。(生徒が地域のさ
まざまな人に出会う体験となる)

- ・専任のコーディネーターを配置する。

○令和5年度からの1学級減とコース制廃止について

- ・類型の違いをわかりやすく図示するなどして、外部にイ
メージが伝わるようにする必要がある。(名称にわかり
やすさがない)

→来年度の重点目標(評価項目)に「広報の充実」を掲げ、学校HPの充実や広報誌の町内配布等、取り組みたい。

本校施設の開放を検討し、地域の小中学生や大人たちと交流できる機会をつくるよう努める。

→今年度は「ボランティアサークル」をつくり、特に北栄町に出かける機会を生徒に広く案内した。要請があつて出かけるだけではなく、「地域に関する部活動」として主体的に出かけるような在り方にならないか検討する。

専任のコーディネーターについては、費用が伴うものであるため実現は難しいと思われるが、外部に聞いてみたい。

→来年度、早い段階で外部に示せるよう、作成する。